

2015年の福井県におけるシタバニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White) の記録

大宮正太郎*

Records of *Lycorma delicatula* (White) in Fukui Prefecture, Central Japan in 2015.

Shotaro OMIYA*

(要旨) 2009年に石川県小松市において日本で初めて定着が確認され、福井県内では2013年にあわら市で初めて発生が確認された外来昆虫のシタバニハゴロモについて、筆者は2015年に福井県内で分布調査を行い、いくつかの地点で新たに発生および成虫を確認したので、その記録を報告する。

キーワード：昆虫，半翅目，シタバニハゴロモ，外来種，分布拡大

1 はじめに

シタバニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White) は半翅目ビワハゴロモ科に属する昆虫で、中国、台湾、ベトナム、インドに分布しているが、2006年には韓国で発生し、日本でも2009年に石川県小松市において初めて定着が確認されている(富沢ほか, 2010)。さらに、2014年にはアメリカのペンシルベニア州でも発生が確認されており(Lawrence *et al.*, 2015)、世界的にその分布を拡大しつつあり、その動向が注目されている外来昆虫である。

日本では石川県小松市での発生以降、石川県内において能美市や加賀市にその分布を拡大しており(富沢, 2013)、福井県でも2013年にあわら市で発生が初めて確認され、更なる分布拡大や定着の可能性も指摘されている(梅村ほか, 2013)。今回、筆者は2015年時点の福井県におけるシタバニハゴロモの分布について、2013年からどのように発生状況が変化しているか分布調査を行った結果、いくつかの地点で発生および成虫を新たに確認したので報告する。

2 方法

調査は2013年に発生が確認されたあわら市吉崎および北潟湖を中心に、シタバニハゴロモの寄主植物であるシンジュ *Ailanthus altissima* Swingleを筆者が巡回して目視することで行った。なるべく多くのシンジュを調べるため、一度確認した場所には固執せず、極力調査範囲を広げるようにしながら調査を実施した。

3 結果および考察

調査の結果、13地点でシタバニハゴロモの幼虫または成虫を確認した(表1)。以下の記録は全て著者によるシタバニハゴロモの目撃記録で、図1に目撃地点(地点A~M)を示す。

表1：シタバニハゴロモの目撃記録

年月日	地点	地名	頭数
2015年9月13日	A	石川県加賀市吉崎町	成虫1頭
2015年9月13日	B	あわら市吉崎	成虫1頭
2015年8月23日	C	あわら市吉崎	成虫7頭
2015年8月23日	D	あわら市吉崎	成虫15頭
2015年8月23日	E	あわら市浜坂	成虫1頭
2015年8月23日	F	あわら市浜坂	成虫1頭
2015年8月23日	G	あわら市細呂木	成虫4頭
2015年8月23日	H	あわら市細呂木	成虫6頭
2015年9月13日	I	あわら市細呂木	成虫2頭
2015年8月23日	J	あわら市北潟	成虫1頭
2015年7月25日	K	あわら市北潟	幼虫50頭超
2015年8月23日	K	あわら市北潟	成虫10頭
2015年9月5日	K	あわら市北潟	成虫3頭
2015年9月5日	L	あわら市波松	成虫2頭
2015年9月5日	M	あわら市赤尾	成虫1頭



図1：シタバニハゴロモの目撃地点(地点A~M)

*福井市自然史博物館友の会 〒918-8006 福井市足羽上町147
E-mail: ohmiyasho@gmail.com

*Friends Membership of Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami-cho, Fukui, Fukui, 918-8006 Japan.



図2：多数発生するシタバニハゴロモ成虫
(あわら市吉崎, 23-VIII-2015, 大宮正太郎撮影)



図3：シタバニハゴロモ4齢幼虫
(あわら市北潟, 25-VII-2015, 大宮正太郎撮影)

シタバニハゴロモの成虫を最も多く目撃したのは、あわら市吉崎であった(図2)。寄主植物であるシンジュも豊富に生育していることから、すでに定着して一大産地となっていることが推察された。また、吉崎をはじめ、北潟湖周縁の道路沿いにはシンジュが散見されるが、それらの樹幹を確認していくと複数地点で成虫数頭が目撃され、北潟湖周辺一帯が新たな発生地となっていることが推察された。

唯一幼虫が目撃された地点Kは、サツマイモ畑の隣の藪がシンジュ林となっている場所であり、その一帯のシンジュで4齢幼虫が多数目撃された(図3)。この地点Kにおいて、幼虫が羽化後、その個体数がどのように推移していくのか動向を観察してみたところ、日数が経つにつれて観察個体数が少なくなる傾向が見られた。この要因として、羽化成虫が他の場所へ移動分散していった可能性があることや、何らかの要因により成虫の死亡率が高くなっている可能性があることが考えられる。

今回の調査により、2015年時点において、シタバニハゴロモの県内における分布が2013年から拡大していることが明らかとなった。また、本調査で最も南に位置する目撃地点は、あわら市赤尾(地点M)であったが、これは成虫1頭だけの目撃であり、付近に卵塊は見当たらなかったため、おそらく既発生地から移動してきた個体であると考えられる。しかし、目撃地点周辺の坂井北部丘陵地にはシンジュがまとまって生育している場所もいくつかあり、それらの場所でシタバニハゴロモが既に発生している可能性や、今後それらの場所で発生する可能性は十分に考えられる。また、東尋坊や三里浜グリーンベルト、越前海岸、九頭竜川中流域などにも多数シンジュが生育しており、現在はシタバニハゴロモの発生を確認できていないが、今後それらの地域へと分布を拡大することも懸念されるため、注意深くモニタリングを行っていく必要がある。

引用文献

- Barringer, L. E., Donovall, L. R., Spichiger S-E., Lynch, D., and Henry, D., 2015, The First New World Record of *Lycorma delicatula* (Insecta: Hemiptera: Fulgoridae). *Entomological News*, **125**, 20-23.
- 富沢 章, 2010, 分布拡大するシタバニハゴロモ. とつくりばち, (81), 1-2.
- 富沢 章・林 和美・石川卓弥・福富宏和・大宮正太郎・三上秀彦, 2010, 日本におけるシタバニハゴロモの発生と分布. とつくりばち, (78), 1-6.
- 梅村信哉・伊藤勝幸・井上美代子・源野みね子・桜井知栄子, 2013, あわら市吉崎におけるシタバニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White) の初記録. 福井市自然史博物館研究報告, (60), 67-68.